

発展途上国における
石油産業の政治経済学的分析
—資料集—

坂口 安紀 編

2008年3月

独立行政法人 日本貿易振興機構
アジア経済研究所

調査研究報告書
地域研究センター 2007-V-16
「発展途上国における石油産業の
政治経済学的分析」研究会

はじめに

本調査研究報告書は平成 19 年度に発足した「発展途上国における石油産業の政治経済的分析」研究会の初年度の成果の一部である。

近年国際石油価格は歴史的な高騰を続け、ついには 1 バレル当たり 100 ドルを突破した。またロシアやベネズエラなどの産油国で強硬な資源ナショナリズムが台頭するなど、世界の石油産業は 1970 年代以来の大きな節目を迎え、再び大きな注目を集めている。石油価格高騰の背景には、中国の旺盛な石油需要や、サブプライム問題やドル安との関連で議論される「投機商品」としての石油があり、これらの点については石油専門家やエコノミストらが議論を展開している。一方で、近年の国際石油産業は、各産油国の地域特殊な要因の影響を以前にも増して強く受けるようになっている。その理由は、1970 年代以降石油産業の主要担い手が欧米メジャーから途上国産油国の国営石油企業に移ったためである。そのため民間石油企業とは異なる要因が、各国の石油生産の動向に影響を与えるようになっている。各国の地域研究者が集まる本研究会では、世界の石油産業の動向にも影響を与える途上国産油国の各国・地域特殊の要因を、地域研究のアプローチから比較分析することを目的としている。地域要因の分析により、石油専門家やエコノミストと補完的な知見を提供することで、現在の国際石油産業をより多面的に理解する一助となればと考えている。

本研究会では、産油国の石油政策や石油生産に影響を与える要因を比較分析するにあたり、次の二つの分析軸を設定した。一つは①市場原理（企業）vs 国家原理（資源ナショナリズム）、もう一つは②中央 vs 地方、である。①で取り上げるのは、ロシア、ベネズエラ、中国、インドネシアの 4 カ国、②で取り上げるのはイラク、ナイジェリア、エクアドルの 3 カ国である。対象国は、産油量や埋蔵量など産油国としての重要性ではなく、上記二つの視座で分析する上で有意な事例であるという観点から選択された。またロシアが発展途上国であるか、という問題もあるが、世界 2 位の産油国、最大の石油

輸出国（共通資料を参照）であるという重要性、石油産業・石油企業に大きな影響を与える法律や政治的意思決定の制度化度合い、近年の国際石油社会においてベネズエラと並んで注目されているロシアの資源ナショナリズム、などを鑑みると、本研究会でロシアを比較対象とすることは有益であると判断した。

本書は研究会の初年度の成果として、上記7カ国について石油産業の基礎的情報、法的枠組み、歴史的発展過程、先行研究で注目される議論、各国独自の石油産業に関する情報ソースなどを、できるだけ横並びに整理した。また冒頭にはこれらの国々および主要産油国に関する統計情報を掲載した。執筆者はもとより、これらの国々の石油産業に関心のある読者にとっての有用なハンドブックとなることが期待されている。研究会2年めにあたる平成20年度は、これらの基礎情報をベースにして、各国ケースについて上記2つの視座からの比較分析を深めていきたいと考えている。

2008年3月 編者

目次

はじめに		p. i
共通資料		p. v
第1部 国家原理 vs 市場原理		p.1
第1章 ロシアの石油産業	伊藤庄一	p.3
—オイルブームは非民主化の序曲か?—		
第2章 ベネズエラの石油産業	坂口安紀	p.35
—国家原理と経営原理のせめぎあい—		
第3章 中国の石油産業	堀井伸浩	p.73
—進む市場経済化と対外進出—		
第4章 インドネシアの石油産業	佐藤百合	p.107
—産油国から消費国へ、国家独占から市場競争へ—		
第2部 中央 vs 地方		p.145
第5章 イラクの石油産業	吉岡明子	p.147
—積み重なる負の遺産と「地域」を巡る新たな課題—		
第6章 ナイジェリアの石油産業	望月克哉	p.179
—歴史的展開と問題点—		
第7章 エクアドル	新木秀和	p.199
—資源ナショナリズムと対外開放のはざまで—		

執筆者一覧（執筆章順）

いとうしょういち
伊藤庄一 環日本海経済研究所（ERINA）調査研究部 研究主任

さかぐち あ き
坂口安紀 アジア経済研究所地域研究センター 副主任研究員

ほり いのぶひろ
堀井伸浩 九州大学大学院経済学研究院 准教授

さとう ゆ り
佐藤百合 アジア経済研究所地域研究センター 専任調査役

よしおか あ き こ
吉岡明子 日本エネルギー経済研究所 研究員

もちづき かつ や
望月克哉 アジア経済研究所新領域研究センター 専任調査役

あら き ひでかず
新木秀和 神奈川大学外国語学部 准教授

共通資料

- 資料1 主要産油国の石油生産の推移
- 資料2 主要産油国の埋蔵量、国家経済・輸出・財政に占める石油の割合等
- 資料3 世界の主要原油輸出国
- 資料4 世界の主要石油消費国
- 資料5 石油価格の推移(1970～2006年)
- 資料6 2007年以降の石油価格の推移

＜各委員からの資料提供をもとに坂口安紀作成＞

資料1 主要産油国の石油生産の推移

	1965	1970	1980	1990	2000	2005	2006	2006 シェア
単位	(1000b/d)	(1000b/d)	(1000b/d)	(1000b/d)	(1000b/d)	(1000b/d)	(1000b/d)	(%)
世界	31,803	48,061	62,946	65,470	75,033	81,250	81,663	100.0
サウジアラビア	2,219	3,851	10,270	7,105	9,491	11,114	10,859	13.1
ロシア	n/a	n/a	n/a	10,405	6,536	9,552	9,769	12.3
アメリカ	9,014	11,297	10,170	8,914	7,733	6,895	6,871	8.0
イラン	1,908	3,848	1,479	3,270	3,818	4,268	4,343	5.4
中国	227	615	2,119	2,774	3,252	3,627	3,684	4.7
メキシコ	362	487	2,129	2,977	3,450	3,760	3,683	4.7
カナダ	920	1,473	1,764	1,965	2,721	3,041	3,147	3.9
アラブ首長国連邦	282	762	1,745	2,283	2,626	2,751	2,969	3.5
ベネズエラ	3,503	3,754	2,228	2,244	3,239	2,937	2,824	3.7
ノルウェー	-	-	528	1,716	3,346	2,969	2,778	3.3
クウェート	2,371	3,036	1,757	964	2,206	2,643	2,704	3.4
ナイジェリア	274	1,084	2,059	1,870	2,155	2,580	2,460	3.0
アルジェリア	577	1,052	1,139	1,347	1,578	2,016	2,005	2.2
イラク	1,313	1,549	2,658	2,149	2,614	1,833	1,999	2.5
リビア	1,220	3,357	1,862	1,424	1,475	1,751	1,835	2.2
ブラジル	96	167	188	650	1,268	1,715	1,809	2.3
イギリス	2	4	1,663	1,918	2,667	1,809	1,636	2.0
アンゴラ	13	103	150	475	746	1,233	1,409	1.8
インドネシア	486	854	1,577	1,539	1,456	1,129	1,071	1.3
エクアドル	8	4	206	292	409	541	545	0.7

(出所)BP, *BP Statistical Review of World Energy 2007*. 同社ホームページ(<http://www.bp.com> より2008年1月10日閲覧)から抜粋。

(注)網掛けが本書で取り上げる国。アンゴラまでは2006年産油量で上位18位以内の国々。インドネシア、エクアドルよりも産油量が多い国(カザフスタン、オマーンなど)が数カ国ある。

資料2 主要産油国の埋蔵量、国家経済・輸出・財政に占める石油の割合など。

単位	埋蔵量 (2006年) (10億バレル)	生産量 (2006年) (1000b/d)	R/P (2006年)	石油産業のGDP 寄与率 (2006年)	石油／総輸出額		財政の石油依存度 (2006年)		GDP (2005年) (100万ドル)	人口 (2005年) (100万人)	一人当たりGDP (2005年) (ドル)
出所	BP2007	BP2007	(年)	(%)	出所	(%)	出所、 注	(%)	WDR2007	WDR2007	左記より計算
世界	1,208.2	81,663	40.5						44,645,437	6,437.7	
サウジアラビア	264.3	10,859	66.7			89.9			309,778	23.1	13,410
イラン	137.5	4,343	86.7			93.5			189,784	68.3	2,779
イラク	115.0	1,999	*	65.0 ①		98.2		95.8 ①	12,602	18.5	681
クウェート	101.5	2,704	*			95.6			80,781	2.5	32,312
アラブ首長国連邦	97.8	2,969	90.2			50.9			129,702	4.5	28,823
ベネズエラ	80.0	2,824	77.6	13.8 ②		74.2		56.2 ③	140,192	26.6	5,270
ロシア	79.5	9,769	22.3	11.4 ④		63.3		43.9 ⑤	763,720	143.1	5,337
リビア	41.5	1,835	61.9			98.6			38,756	5.9	6,569
ナイジェリア	36.2	2,460	40.3	24.6 ⑥		99.5		88.6 ⑥	98,951	131.5	752
アメリカ	29.9	6,871	11.9			3.4			12,416,505	296.4	41,891
カナダ	17.1	3,147	14.9			20.0			1,113,810	32.3	34,483
中国	16.3	3,684	12.1	7.2 ⑦		1.8		n.a.	2,234,297	1,304.5	1,713
メキシコ	12.9	3,683	9.6			15.6			768,438	103.1	7,453
アルジェリア	12.3	2,005	16.8			72.0			102,256	32.9	3,108
ブラジル	12.2	1,809	18.5			7.7			796,055	186.4	4,271
アンゴラ	9.0	1,409	17.6			98.0			32,811	15.9	2,064
ノルウェー	8.5	2,778	8.4			67.7			295,513	4.6	64,242
エクアドル	4.7	545	23.4	21.3 ⑧		57.1		n.a	36,489	13.2	2,764
インドネシア	4.3	1,071	11.0	9.2 ⑨		15.6		25.1 ⑩	287,217	220.6	1,302
イギリス	3.9	1,636	6.5			9.8			2,198,789	60.2	36,525

(出所) 「BP 2007」は、資料1と同じ。「IMF 2007」は、「IMF Country Report No. 04/294 (Aug. 2007)より計算」。「WDR2007」は、World Bank[2007], *World Development Report 2007*, Washington, D.C.: World Bank より抜粋。「WTA」は、World Trade Atlas データベースより2007年について筆者計算。OPEC2006は、OPEC[2007] *Annual Statistical Bulletin 2006*, OPECホームページ(http://www.opec.org)より抜粋。①はIMF、②はペネズエラ中央銀行、③はペネズエラ財務省、④は2003年データ。E. Gurvich, "Makroekonomicheskaia otsenka roli rossiskogo neftegozovoro kompleksa", *Voprosy Ekonomiki* (2004), no.10, p.11., ⑤は、連邦予算に占める石油・ガス部門の割合、田畑伸一郎[2007]「ロシアのマクロ経済と財政状況」『ロシアNIS調査月報』5月、30ページ、⑥はナイジェリア中央銀行、⑦は、国家統計局編 [2007]『中国統計年鑑2007』中国統計出版社に記載の「工業総生産値」、すなわち工業部門の付加価値合計に占める比率を算出、この統計は、全ての国有企業を含むが、非国有企業については売上高が500万元(約8000万円)以上の企業のみが統計範囲となっているため、石油産業のGDP寄与率は実際よりやや高めに算出されていると思われる。この数値には天然ガス産業・コークス産業・原子力燃料産業も含まれている。⑧はエクアドル中央銀行、⑨はインドネシア中央統計庁、⑩はインドネシア政府予算書。

(注) 網掛けが本書で取り上げる国。

資料3 世界の主要原油輸出国(2006年)

順位	国	(1,000b/d)	(%)
1	ロシア	8,217.0	18.9
2	サウジアラビア	7,029.4	16.2
3	アラブ首長国連邦	2,420.0	5.6
4	イラン	2,377.2	5.5
5	ノルウェー	2,314.1	5.3
6	ナイジェリア	2,248.4	5.2
7	メキシコ	2,047.7	4.7
8	ベネズエラ	1,735.1	4.0
9	クエート	1,723.4	4.0
10	イラク	1,467.8	3.4
	エクアドル	411.6	0.9
	インドネシア	301.3	0.7
	中国	113.7	0.3
	世界	43,493.1	100.0
	OPEC	23,306.3	53.6

(出所) OPEC, *Annual Statistical Bulletin 2006*より抜粋。

(注) 資料1と同じ。

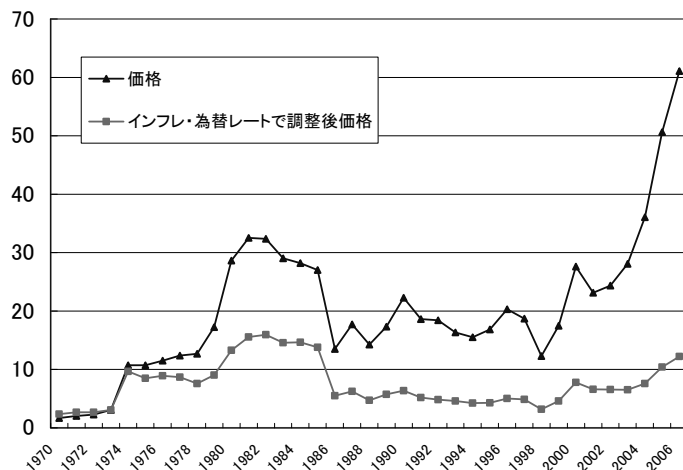
資料4 世界の主要石油消費国(2006年)

順位	国 名	(1000b/d)	シェア(%)	前年度比
	世界	83,719	100.0	
1	アメリカ	20,589	24.6	-1.3
2	中国	7,445	8.9	6.7
3	日本	5,164	6.2	-3.7
4	ロシア	2,735	3.3	4.2
5	ドイツ	2,622	3.1	0.9
6	インド	2,575	3.1	0.6
7	韓国	2,312	2.8	-0.1
8	カナダ	2,222	2.7	-1.5
9	ブラジル	2,097	2.5	2.2
10	サウジアラビア	2,005	2.4	6.2
11	メキシコ	1,972	2.4	-0.8
12	フランス	1,952	2.3	-0.3
13	イタリア	1,793	2.1	-1.1
14	イギリス	1,781	2.1	-1.0
15	イラン	1,669	2.0	3.7
16	スペイン	1,602	1.9	-0.9
17	台湾	1,120	1.3	0.7
18	オランダ	1,057	1.3	-1.2
19	インドネシア	1,031	1.2	-11.9
20	タイ	926	1.1	0.7

(出所)BP, *Statistical Review of World Energy 2007*. 同社ホームページ(<http://www.bp.com> より2008年1月10日閲覧)から抜粋。

資料5 石油価格の推移(1970～2006)

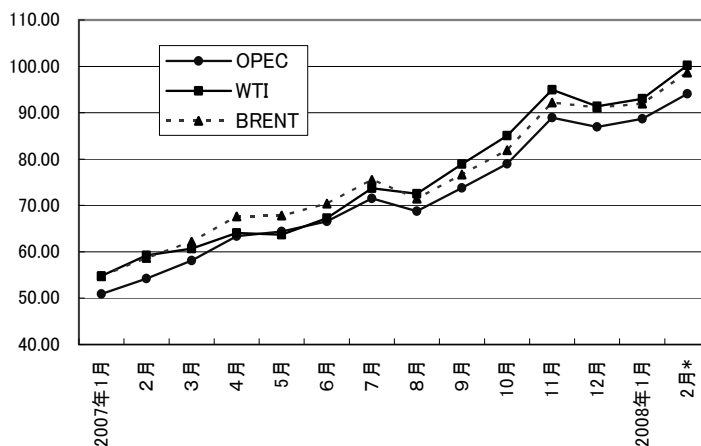
(ドル／バレル)



(出所) OPEC Annual Statistical Bulletin 2006, OPECのホームページ
(<http://www.opec.org> 2007年12月20日閲覧)より筆者作成。

資料6 2007年以降の石油価格の推移(暫定値)

(ドル／バレル)



(出所) ペネズエラ・エネルギー石油省ホームページ
(<http://www.menpet.gob.ve>)より2007年6月8日、2008年3月5日閲覧。
(注)*最終週の価格。

